

平成27年度「GKP広報大賞」エントリーシート

エントリーする団体名の名称 池田市上下水道部	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 経営企画課 八木孝朗
代表者氏名 池田市上下水道事業管理者 菊谷 通隆	TEL:072-752-1111 FAX:072-751-3852 E-mail:s-keiei@city.ikeda.osaka.jp
(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】

部門名 行政広報部門	事例名 下水道展ワークウェアパフォーマンスの広報ツール化
---------------	---------------------------------

事例の概要（適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい）
 本市は10万人都市という決して大きくない自治体であるが、上下水道部では平成26年度に、若手職員を中心とした広報委員会を設立しており、限られたリソースを駆使して最大限の成果を上げられるよう、手作りの広報活動を行っているところである。

その一環として、平成26年7月に開催された「下水道展'14」内「スイスイワークウェアコレクション&コンテスト」にてベストパフォーマンス賞を受賞した演目を、市内のイベントにおいても広報ツールとして有効活用した。

イベントでは、昨夏の集中豪雨による浸水被害が著しかったことを受け、防災啓発の一環として土のうブースを企画したが、集客の方法に課題があった。そこで、ステージ上のパフォーマンスで小道具に土のうを使うアレンジを加え、演目後、土のうブースへのアナウンスをした結果、多数の来場者をブースに呼び込むことに成功した。

下水道展にて



市内イベントにて



演目で興味を引きつけ...



土のうづくりをレクチャー

エントリー事例の特徴（施策等そのものの特徴ではなく、施策等を発信する広報戦略及びその効果が優れていると考えている点を明記願います）

自治体の広報といえば、主な活動エリアは市内であるが、その市域という枠を飛び出し、全国規模で評価を得た広報ツールを市内に持ち帰り、有効活用した一例である。市民の理解を得るためには、常日頃からの地道な広報活動が不可欠であるが、その手段の一つとして、このような「飛び道具」を利用することにより、より下水道の存在を身近に感じていただくことに成功した。

付属資料の提出	あり ・ なし （どちらかに○）
---------	------------------